

(熊本県立高森高等) 学校 令和 3 年度 (2021 年度) 学校評価表

1 学校教育目標

地域密着型の特徴を活かしながら、グローバルな視点を持って将来の地域を担う人材を育てる。そのため、全教職員一体となって「くまもとの教職員像」を実践し、生徒一人一人が自らの強みを活かして輝きを放つ魅力ある学校づくりに努める。

- ①生徒の「自律」を最上位の目標とし、国際人として考え行動できる力を育成する授業を実践する。
- ②中学生が本校を進学先に選びたい新たな魅力を具体的に検討し、その実現に向けた動きを始める。
- ③全職員で深い「傾聴」と「承認」を実践し、小規模校だからできるきめ細かな教育活動を実践する。
- ④地域との連携を強化し、本校教育活動の魅力を生徒が主体的に発信する機会を意識して確保する。

2 本年度の重点目標

魅力的な教育活動の創造と効率的な組織運営の実現により、生徒の「自律」：自ら考え、自ら選択し、自ら判断し、自ら行動できる人を育成する。

【学校経営目標】 (1) 幼保小中高連携による「英語教育」や「ICT活用教育」を実践する。

(2) スーパー・グローバルハイスクールの指定校とICT先進校として、地域密着型とICT最大限活用で学びを充実させ、地域活性化に連動した新たな学びによる特色化を図る。

(3) 各職員が教育充実のための創造的なアイデアを生み出す。

【授業目標】 (1) 主体的に学ぶ態度の育成
(2) 課題発見・解決能力の育成
(3) 表現し発信する力の育成

【特別活動目標】 (1) 協働性の育成
(2) 多様性の尊重

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 (○は成果 △は次年度への課題)
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革を意識した業務改善	ICTを活用した正確性と効率化を意識した持続可能な業務改善を図る。	各分掌部から最低1つ、ICTを活用した業務改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○9月までに各部から2つ以上、ICTを活用した業務改善を提案し、職員間で共通理解を図る。 ○各部からの提案を10月～1月で検証し、次年度に繋げる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○各部から業務改善案が提出され、1月全職員で確認した。ICTを活用することで業務削減(集計・印刷・配付等)及びコスト削減(印刷に関わる用紙・インク等の節約)に繋がった。また、生徒への連絡・意見集約も可能で、互いの時間節約と効率化にも繋がった。 △健康観察に関しては以下の2点に関して再検討が必要である。 ①入力忘れへの対応、②紙媒体個人カードで有効であった「生徒からのコメント(相談)記入と養護教諭からの返し」のICT機器での入力方法

	入学生41名確保のための本校の魅力の創造と発信	地域活性化策に運動した新しい学びに見合う教育課程を策定する。	学科改編の為の教育課程を9月までに作り上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ○学科改編委員会が6月中旬までに、新教育課程の骨子を作り上げる。 ○県教育委員会や関係機関等から助言を受け、学科新設のための教育課程とスケジュールを作り上げる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、定期的に教科主任会を開き、新教育課程の骨子を作り上げることができた。また、学科新設のための教育課程とスケジュールも作り上げることができた。
		教務部が主査となり、学校総体で魅力を発信する。	生徒が主力となるICTを活用した情報発信方法を最低1つ実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○各中学校の進路情報提供状況を見学し、担当班で情報発信の計画を6月中旬までに立案し、学校運営協議会に提案する。 ○自治体が発行する広報誌や自治体の情報発信ツールを活用し、本校の教育活動をアピールする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○例年通り、各中学校へのポスターを作成し、配付することができた。また、感染対策をしてオープンスクールを実施することが出来た。各中学校別に会場を設け、当該中学校の卒業生が進行した。参加人数を増やすことが次年度の課題である。 ○高森町役場・南阿蘇村役場の広報担当者に各担当者が行事取材の案内を行い、掲載していただいた。 △高森高校Good Newsが県指定校予算措置の変更で作れなくなった。新たなアピール方法を考えたい。
学力向上	カリキュラムマネジメントによる授業改善	個別最適化した教育を推進する。	観点別評価を1月までに確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ○評価に関する講師招へい研修会や職員研修等を実施し、観点別評価表を構築する。 ○各教科でスーパーティーチャ等を招聘し、授業改善に取り組む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○国語・数学・英語のスーパーティーチャーを招聘し、ICT機器を活用した授業改善や観点別評価について、助言をいただき、教科主任会で共有することができた。
		自立型の学びへの転換を図る。	各教科のICTを活用した探究型授業の実践例を12月までにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○町内義務制のICT活用授業を観点別評価の視点で、全職員1回以上参観する。 ○7月下旬までに、授業マネジメントに沿った授業実践報告をまとめ、2学期の公開授業に繋ぐ。 	3	<ul style="list-style-type: none"> △コロナ禍ということもあり、町内義務制のICT活用授業を全職員が参観することはできなかった。 ○1学期に参観授業を行い、全職員が自身の授業を録画した。その中から2本公開授業を実施した。また、2学期は別の授業者による公開授業を実施した。
キャリア教育(進路指導)	社会における自己の生き方を考えるキャリア教育の推進	地域と連携しキャリア教育に取り組む。	グローバル・プロデュースの課題研究テーマそれぞれが外部人材や施設など、団体との協力関係を築き、地域との連携を図る。また、地域人材の開拓を行いキャリア教育講演会の実施を3回行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会にグローバル・プロデュースの課題と連携先一覧を提出し、助言を受ける。 ○グローバル報告会はYouTube限定配信等を併用し、学校運営協議会委員や探究活動に関する外部指導・支援者に観ていただき、評価を受ける。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル・プロデュースの連携一覧は学校運営協議会で確認していただいた。また、グローバル報告会に関して、文化祭での中間報告における評価を3月の報告会に活かすよう全員で共有した。 ○3月のグローバル報告会は感染対策として、YouTube配信で実施する。 ○学校評価アンケート結果では好意的な評価(A・B)の割合が、保護者93.8%、生徒97.8%、職員100%で、Aと回答した割合が三者とも約60%で多数を占めた。本校のキャリア教育推進が浸透している結果ととらえられる。引き続き、より一層のキャリア教育推進を図る。

		個に応じた体系的な進路指導を確立する。	キャリア・パスポート記入時間をLHRの年間計画に設定し充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポート入力・まとめの時間を設定し、振り返りと次学期の目標に繋げる。 ○1人1台タブレットを活用し、各自のキャリア・パスポートを電子データ化する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートに関しては、各学期、時間を設定し入力が出来た。また、Googleサイトを活用し自己の成長の足跡が見られるように改善した。 又、個に応じた指導では3年生の就職・進学指導に対して全職員が役割を分担して取り組んだ。 △Googleサイト活用は効率的である一方、生徒ごとに記述の充実度の差が大きく異なる。今後は記述の仕方を指導するなど、より細やかな指導が必要である。
生徒指導	集団を意識して行動できる力の育成	保護者（家庭）と連携した基本的な生活習慣を確立し、情報モラル教育を推進する。	生徒会が中心となり自他の人権尊重と自己の健康管理の視点から本校の情報モラルのルールを、8月までに見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○親と子の学びの中で、情報モラルルールを確認し、各家庭で実践する。 ○ICT推進校として、情報モラル遵守先進校となるべく、講師招へい講義を2学期に実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○11月に外部講師を招へいし、情報モラル関係の講話を実施することができた。（生徒・保護者・職員参加） ○情報モラルに関わるアンケートを生徒、保護者を対象に実施し、現状の課題を把握することができた。保護者と情報共有し、次年度は各家庭における実践の徹底に繋げる。
		生徒の自治活動機会を確保する。	生徒会・生徒各種委員会が「自律」を意識した活動を最低1つ計画する。	<ul style="list-style-type: none"> ○体育祭、文化祭を始め、学校行事等で生徒会・生徒各種委員会で地域連携の活動を計画し、実施する。 ○「生徒の心得」の見直し及び再確認を、生徒会・後援会役員会合同で実施し、服装・頭髪検査撤廃に繋げる 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な学校行事を実現するため、生徒会執行部が中心となり、新たな体育祭を創り上げることができた。 ○「生徒の心得」の見直しについて、生徒会執行部が中心となり、全生徒・保護者代表者・全職員の意見を取り入れ、進めることができた。
人権教育の推進	命を大切にす る心を育む指導	多様性を受け止め、自他を尊重する資質と人権感覚を育成する。	差別を見抜き、NOと言える生徒・職員が100%をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面とICTを活用し、適宜、生徒・職員・保護者に人権に関する啓発を行う。 ○人権教育LHR・全校集会・綴り方などを通して、意見を伝え合い、お互いを知ることによって安心・安全な居場所づくりを推進する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○職員に向けて、人権にかかわる講演会等の情報提供やオンライン研修を実施することができたが、生徒・職員に比べ、保護者への啓発が不十分であった。 ○LHR、全校集会、人権作文を通して、人権教育の充実を図ることができた。
			「学びのUDの視点で互いの授業を参観し合う」授業参観を2学期に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○専門機関の助言を受け、保護者・職員と連携し個別教育支援計画、個別の支援計画を1学期に作成し、共通理解を図る。 ○学びのUD化をテーマとする職員研修や授業参観週間を設 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○専門機関の方を招き、直接生徒の様子を見ていただくことで、具体的な助言をいただくことができた。また、その内容について保護者、職員で共通理解を図ることができた。 ○授業参観週間を設定し、特に職員間で意見交換することができた。

				定する。		
いじめの防止等	いじめを見落とさず、いじめを許さない環境づくりの推進	いじめを許さない姿勢を育成し、いじめの早期発見に組織的に取り組む。	「いじめ早期発見のためのチェックリスト」と「いじめを許さない行動指針（生徒会）」をいじめ防止サインの日（毎月末）に確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止サインの日を中心に、本校のいじめ防止の取組みに関して保護者と共通理解を図る ○SCによるカウンセリングやストレスマネジメント研修、SOSの出し方研修、スクールサイン等、専門機関を活用し、いじめの早期発見早期対応を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめが疑われる事案等が起きた際には、全職員で迅速な対応をとることができ、いじめの早期発見に向けて組織的に取り組むことができたが、「いじめ防止サインの日」の啓発が不十分であった。 ○SCとも連携を図り、各種研修は予定通りに実施することが出来た。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域との連携を強化し、地域の期待に応える学校づくり	スーパー・グローバルハイスクール（SGLH）事業の充実を図る。	SGLH事業の自己評価を5月と2月に実施し、総合型学校運営協議会を基盤としたコンソーシアムに指導・助言をいただき、事業の深化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル・プロデュースの活動状況、学校行事・通常の生徒の学習の様子等をHPに掲載する。 ○グローバル・プロデュースの自己評価を学校運営協議会（2回目）に提示し、指導・助言をいただき、次年度に活かす。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○高森町のデータ放送を活用して、「高森高校イイネニュース」として、学校行事や生徒の活躍など、PRに努めた。また、今年度の県教育委員会の取組「県立高校検索ガイド」も活用し学校の紹介を行った。高森町のデータ放送と県立高校検索ガイドは今年度初めての取組で、管理職が担当したので、次年度は、ICT活用委員会が中止となり、連携して、HPも活用しながらアピールに努める。 ○グローバルプロデュースの自己評価を集約し、学習成果の検証を行った。
健康管理・安全管理	健康教育・保健教育の推進	心身の健康管理能力の育成	担任・保護者と連携して、歯科受診率90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○保健委員会が、歯に関する疾患が健康に及ぼす影響に関して生徒及び保護者に対して啓発活動を行う。 ○9月に未受診の生徒に個別面談を実施し、受診に繋げる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○保健委員を中心に、高森高校生の歯と口の実態の報告を保健だよりで行い、学校歯科医と連携し、要受診者への保健指導を学期ごとに行った結果、受診率は81.8%となり、その取組みや結果を学校保健委員会で報告した。 ○継続的に受診喚起することで未受診者が減少した。
	環境教育と防災教育の推進	環境の維持保全に寄与する態度の育成	学校ISOの年間消費電力削減に関して、昨年度からの上昇枠を最低限にとどめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍対策やICT活用授業を充実するために電力消費は上昇する。美化委員会主導で、生徒が利用していない教室のこまめな消灯を行い節電に取り組む。 ○美化委員が、学校ISO重点目標に関して生徒・職員への啓発活動に取り組む。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス対策で教室内に加湿器や空気清浄機など電化製品が増え電力消費が上昇した。一方で移動教室のときの消灯はできていたが、放課後の電子黒板の電源OFFの徹底ができていなかった。 △次年度は学校ISOに関して、生徒・職員への啓発活動に取り組む。
		防災意識の向上と自助	自助・共助を含めた、コロナ禍にお	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインを通して全国の学校と繋がり、本校の取組を紹 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○AED講習会、シェイクアウト訓練、避難訓練は「実践的」を意識して、昨年度より充実した内容で取り組むことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・共助の意識の育成 	ける防災教育を2 ・3学期に行う。	介すると共に他校の取組を知り、刺激を受けることで更に防災意識を高める。 ○阿蘇広域行政事務組合消防本部や高森町役場と協力して、ハザードマップの有効な使い方や高層ビル火災の避難を学ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> ○本校のタイムラインを作成し、危機管理マニュアルの改訂に取り組んでいる。 ○式典や入試の際に緊急避難計画を立てて、有事に対しての対応を全職員で共有した。 ○修学旅行は中止になったが、高層ビル火災における避難に関して注意事項を確認した。
--	---	----------------------	--	--	---

4 学校関係者評価

【学校関係者評価委員による評価平均】

学校経営3.6 学力向上3.3 キャリア教育3.5 生徒指導3.6 人権教育の推進3.1 いじめの防止等3.3
 地域連携3.7 健康安全教育的3.4

※「入学生確保の為に本校の魅力発信」に関して努力を要するという事で、学校経営に関して、お一人「努力が必要である」と評価された。

※今年度はコロナ禍の為、学校関係者評価委員会は書面開催となった。生徒の様子を見ていただく機会は4回（学校運営協議会、授業参観、体育祭・文化祭の動画配信視聴）のみであった。そのため資料を拝見するだけでの評価は難しいとのご意見もあった。

【生徒・保護者・職員の学校評価アンケートに関して】

- 三者とも評価が高く、高校が目標を立ててその実現に向けて取り組んだ成果が出たのだと思う。
- 三者比較のデータ分析から、評価項目の伸びが数値の変化としてよく表れていて、素晴らしいと思う。

【評価していただいた内容】

- 働き方改革で、ICTを活用した業務改善は評価する。
- 「地域との連携を強化して、高森高校の教育活動の魅力を生徒が主体的に発信する」という学校教育目標が、達成できていると思いました。
- 生徒の「自律」を推進する人材育成を実行し、学校経営、キャリア教育、地域連携で、高い評価の取組をされています。

【ご指摘やご助言をいただいた内容】

- 41名の入学生の確保に関しては、漫画関連学科の動きに合わせてプロジェクト体制で進めるべきだと思います。
- ICTを使った情報発信など、もっと可能かと思いますが、そこに携わる専任の方がおられないと難しく大変であると感じています。
- HPやFacebookの更新など、入学を考えている方が検索された際に、新しい情報や知りたい情報に繋がって欲しいと思います。
- 多くの項目について、『非常に良い・良い』の高評価だが、『努力が必要である・かなりの改善を必要とする』の評価（意見）も大切にしていきたい。
- 生徒・保護者が学校評価に回答する際、親子で会話をしているか、情報の発信の努力と受信の努力が必要だと感じます。

5 総合評価

【昨年度の学校関係者評価との比較】

学力向上とキャリア教育に関しては昨年度に比べると、若干評価が下がった。これは、今回の学校関係者評価委員会は書面開催で、具体的方策にあげている「観点別評価」や「キャリアパスポート」に関して直接説明をすることができず、成果をイメージしていただくことができなかつた事が要因であると考え。一方、生徒指導と地域連携の評価が上がっている。この2項目に関しては、職員の自己評価が上がっていることも一因であろう。また、これらに関しては日常的に情報が発信されているので、成果を実感していただけていたと考える。ボランティアやインターンシップ等を通して生徒の様子を見ていただく機会があり、多様性の観点からジェンダーにとらわれない制服の選択は2学期から既に取り組んでいる。また、総合的な探究の時間「グローバル・プロデュース」は地域の方々からの指導・支援を受けながら進めており、地域との連携は年々広がっている。

【ご意見・ご助言から】

- コロナ禍で保護者や地域の方々に来校できたのは昨年と同様1・2回であった。しかし、今年度はオンライン配信を行い学習活動の様子を視聴する機会を設けた。学校での様子を知る機会が多くなった事で、生徒・保護者による評価も全体的に上がったと考える。
- 「全体的に高評価で、信頼されている学校だと思います」との評価をいただいたが、一方、「『人権教育』『いじめ防止』『先生方への評価』で、一部の保護者の評価が低いことが気になる。一人一人の子どもをじっくりとみて欲しいのではないのでしょうか。」とのご意見をいただいた。また、学科改編に関して「多くの地域から多くの生徒さんが集まると益々活気あふれる学校になるのではと思う一方、きめ細かな個別指導が損なわれては本末転倒です。」とのご助言をいただいた。コロナ禍や学科改編で業務が増えることは避けられないので、小規模校の本校の良さである、生徒一人一人に対してのきめ細かい指導を、職員間だけでなく、保護者・地域と連携しながら、チームで継続発展させる。
- 入学生41名の確保は今年度も達成できなかった。直接、対面による情報提供は効果があるが、全国展開を視野に入れた学科改編に向けて、ICTを活用した情報発信、生徒を主体にした情報発信の構築は喫緊の課題である。

6 次年度への課題・改善方策

- ICT機器も活用し、生徒募集関係及び、在校生保護者に向けた情報発信を強化するため、生徒・保護者・職員による校内体制を整える。
- 学科改編校内プロジェクト委員会を整備し、校内外の関係部署と連携し進める。学科改編に向けたタイムスケジュールと取組事項は、職員は勿論、生徒・保護者とも情報を共有し、学校総体として令和5年4月1日を迎える。